

502. 2-N27ウ



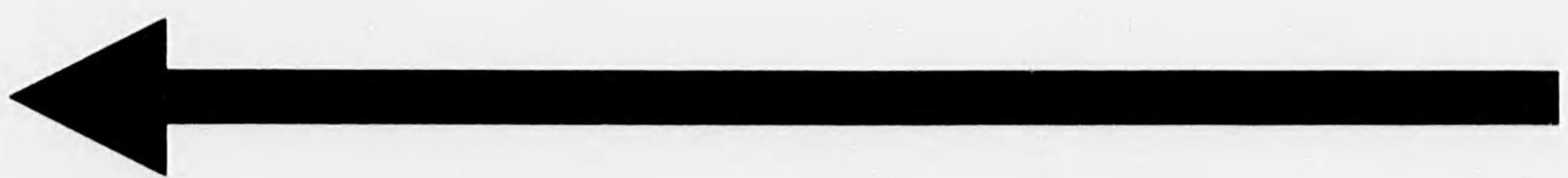
1200500744468

502.2
N27

南方諸地域ノ工業並貿易
名古屋市場戦時經濟局編
附名古屋市場所有南方地域蒐集見本一覽



始





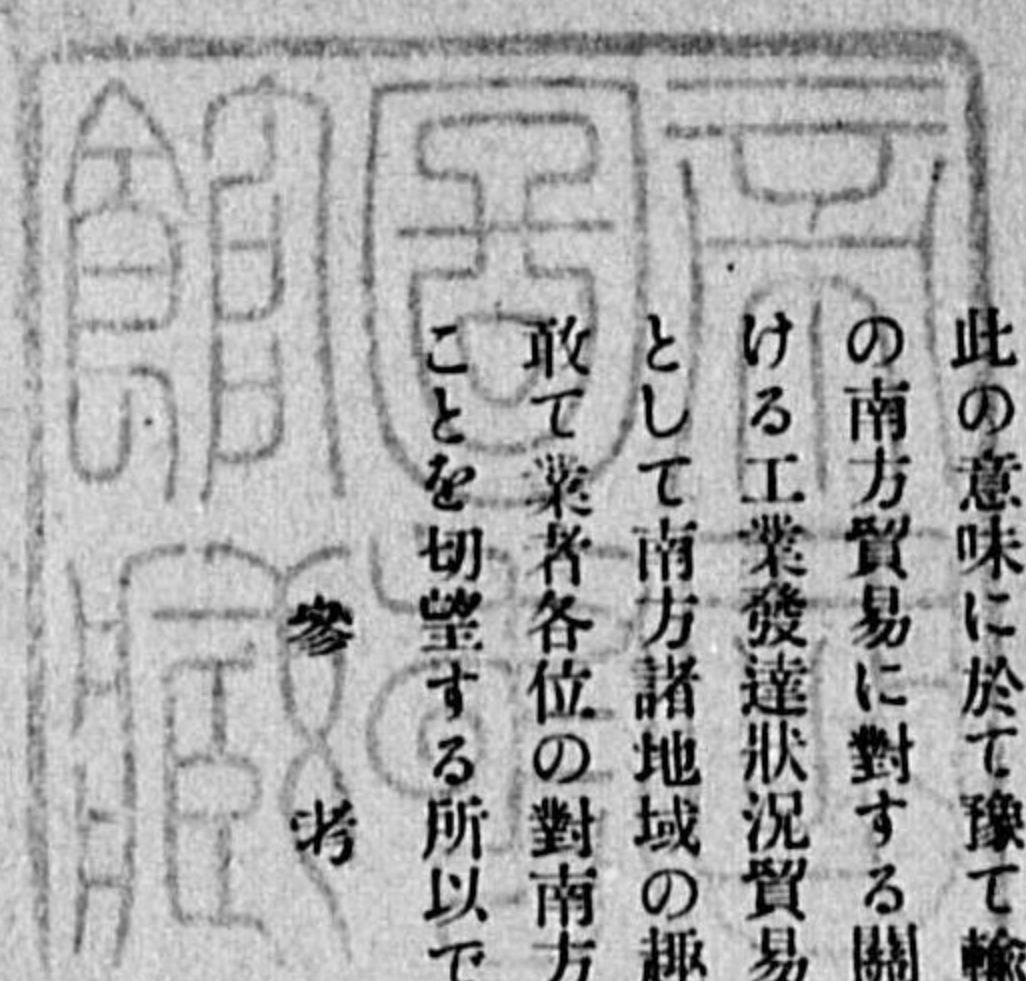
十七年十二月

南方諸地域ノ工業並貿易

附名古屋市所有南方地域蒐集見本一覽

名古屋市戰時經濟局

502.2
N27



序

輸出振興から輸出調整へ、自由貿易から計畫貿易への移行を遂げた今日に於ても商品の研究は些かも其の必要性を減じない。寧ろ大東亞共榮圈建設の爲にも將又戦後の世界貿易への準備としても立派な輸出品の研究は此際特に心掛くべき問題であらう。

此の意味に於て豫て輸出品の改善研究に努めて來た本市に於ては去る七月初旬南方商品展示會を開催し些か業者各位の南方貿易に對する關心と研究に資したのであるが、今回其の要望に應へ、當時資料として掲出した南方諸地域に於ける工業發達狀況貿易資料等を各種參考書に付照應檢討して補正敷街を施し茲に冊子の形に於て刊行した。更に附録として南方諸地域の趣味資料及本市所有に係る同地域に於ける蒐集參考見本一覽を附した。敢て業者各位の對南方貿易業務上、貿易品の研究上、乃至は今後の對南方工業進出上多少の參考として御活用あらんことを切望する所以である。

大南洋年鑑
大南洋工業
南方諸國の資源と産業
南方統計要覽
南方經濟研究
南洋地理大系
南洋諸島
蘭印經濟概観

比律賓の全貌
比律賓に於ける資源及貿易
佛印の企業
佛領印度支那
泰國の産業貿易事情
英領馬來
マニラ
ビルマ
讀本
賓(拓殖叢書)
南洋叢書



933
483
E

目次

南方諸地域の工業

- 一、地域並業種別工場数一覽
- 二、地域別工業發達状況解説

| | | |
|------------|-------|----|
| (一) 佛 印 | | 一 |
| (二) 泰 國 | | 三 |
| (三) 馬來及昭南島 | | 六 |
| (四) ビルマ | | 九 |
| (五) 東 印 度 | | 二一 |
| (六) 比 律 賓 | | 二四 |

南方諸地域の貿易

- 一、地域並年度別貿易額一覽
- 二、地域並商品別輸出入貿易額

| | | |
|------------|-------|---|
| (一) 佛 印 | | 三 |
| (二) 泰 國 | | 四 |
| (三) 馬來及昭南島 | | 五 |
| (四) ビルマ | | 六 |
| (五) 東 印 度 | | 七 |
| (六) 比 律 賓 | | 八 |



南方諸地域の工業

附

三、地域別對本邦輸入貿易額

| | |
|------------|---|
| (1) 佛 印 | 三 |
| (2) 泰 國 | 三 |
| (3) 馬來及昭南島 | 三 |
| (4) 東 印 度 | 三 |
| (5) 比 律 賓 | 三 |

錄

一、南方諸地域の地域別趣味嗜好

| | |
|-----------|---|
| (1) 佛 印 | 元 |
| (2) 泰 國 | 元 |
| (3) 馬 來 | 元 |
| (4) ビ ル マ | 元 |
| (5) 東 印 度 | 元 |
| (6) 比 律 賓 | 元 |

二、名古屋市所有南方地域蒐集見本一覽

| | |
|------------|---|
| (1) 盤谷蒐集見本 | 四 |
| (2) スラバヤ | 四 |
| (3) 上 海 | 五 |

| 業 | 織 | | 工 | | 窯業工業 | 製材及木工業 | 皮革製品工業 | 煙草工業 | 其 | 調査年 | 備考 |
|---|-----|----|--------|----|------|--------|--------|------|---|------|---|
| | 刺子織 | 帽子 | 織布及同製品 | 其他 | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 一九三六 | 精米工場ハ一〇 馬力及ソレ以 上ノ設備ヲ有ス ルモノ |
| | | | | | | 約一、〇〇〇 | | | | 一九三六 | 機械業、綿織業、 絹織業、漆器製 造業、陶磁器製 造業等ガアルガ 手工業ノ域ヲ脱 シナイ |
| | | | | | | | | | | 一九三六 | |
| | | | | | | | | | | 一九三六 | 精米工場六六六 ノ内少數ノ製バ ン醸造、製粉工 場ヲ含ム 製油工場一二六 ノ内マツチ、石 鹼工場ヲ含ム |
| | | | | | | | | | | 一九三六 | 其他ニハ電気工 業三一ニヲ含ム |
| | | | | | | | | | | 一九三六 | 窯業工業中一、九 〇九ハ陶磁器工 場ナリ 其他ノ内上履製 造一、三三九、 製鹽二、五一四 ヲ含ム |

二、地域別工業發達狀況解説

○佛印の工業

従來佛印の工業は佛本國の政策に依り人爲的にその發達を阻止せられた感が深い。今日僅かに農鑛業に關し數十種の工業らしきものが存在するのみである。

(イ) 農産物工業

サイゴンを中心として多數の新式精米工場が存在する、西貢の極東精米會社は四大工場を有し日産白米二、五〇〇噸と稱する。支那人の精米工場を併せ交趾支那の輸出向精米所の精米能力は一日概七、五〇〇噸の生産を有する。此の外日産一噸乃至二五噸の精米工場増加しその數二五〇に及ぶ。

(ロ) 飲料品工業

東京に於てはオナムル醸造會社、交趾支那及東埔寨にてはラリユー會社が麥酒二五、〇〇〇ヘクトリツトル、其他製氷ラムネ等の製造をなす。大休河内、西貢、海防、ブノンベンの都會地を主とするも其他東京、安南交趾支那の小都市にも氷製造の小工場が分散する。

アルコール及土人用酒の製造は河内、海陽、南定、シヨロンに工場を有つ印度支那アルコール會社、交趾支那のマゼット會社等を主とする。其他土人資本としては東京アルコール會社、東京安南アルコール會社等あり佛印年産二〇〇、〇〇〇ヘクトリツトルに及ぶと稱す。

(ハ) セメント

一八九九年海防に設立せられた半官半民の印度支那ポートランドセメント會社が獨占してゐる。製造量は年産二六、

六萬噸（昭和十三年）に達し從來支那市場に於て邦品の強敵であつた。石炭と石灰に恵まれた佛印のセメント工業は將來刮目に値する。

(ニ) 窯業

硅砂を原料として河内と西貢には硝子、燻類の製造工場がある。海防の極東硝子會社は日産板硝子八、〇〇〇箱（一箱十平方米）硝子燻六〇〇、〇〇〇ヶを生産する。ユツプについては年産五、九〇〇噸に達した。

陶業は支那廣西省境の門開附近に出来る門開燒と河内附近のバツチャン燒とがあるが未だ國內需要を充すに足らない

(ホ) 織維工業

原棉—佛印の原棉の輸入は一九二一年五、〇〇〇噸であつたが一九四〇年には一四、〇〇〇噸に達した。佛印の主たる栽培地はカンボジャ地方で棉花の増産には政府も多大の努力をしてゐる。輸入棉は從來印棉、米棉を以てした。

紡績—東京綿業會社と印度支那製糸會社の二つが主なるもので、其の生産量は一九三九年に一一、〇〇〇噸を超えた。糸の輸入量は一九四〇年一二、〇〇〇餘噸である。

縮織物—糸の四分の三は約六萬臺の手織機を持つ各地の小工場で織物にされてゐる。中でも大きい會社は東京の綿織物會社で年約三、〇〇〇噸の織物を製造し其品種も各種縮布縮毛布に亘つてゐる。

其他海防には絨氈工場、河内には蚊帳布工場がある。

以上佛印一九三九年に於ける全産額一二、〇〇〇噸に達するも尙二二、〇〇〇噸の輸入を見てゐる。

絹—土産繭から絹糸を繰り絹布を織る工場は南安南のヅリニオン會社、東京、南定の佛安織布會社、柬埔寨の佛印支絹會社等あり。佛印の生糸生産量は約一、〇〇〇噸、人絹織物四五〇噸に見積られてゐるが佛印の人絹輸入は尙九〇〇噸に達してゐる。

る。佛印の絹及人絹織物の消費は二、三〇〇噸を超えてゐる。

(ヘ) 皮革

製革業は支那人の手中にあり、佛人經營のものは河内に印度支那製革會社があり、靴靴等の製造に供せられ、その技術は比較的發達してゐる。

交趾支那の交趾支那鞣皮會社は一二—一五噸の靴革を製造する。

(ト) 製材、木工

製材工場は各地にあり、チーク、紫檀、黒檀等を利用する家具類の製作には見るべきものあり。

(チ) 製紙

主なる製紙工場は佛印製紙會社他二社とし其の總生産額三、八〇〇噸である。

(リ) 化學工業酸素

アセチレン木炭ガス、其他石鹼、爆發物の製造工場あり多く西貢及海防に散在する。石鹼に付ては一九四〇年の生産高七、〇〇〇噸グリセリン一四五噸となつてゐる。

(ヌ) 其他

製糖、燐寸、護謨、煙草、植物油、鉛及小間物等の必需品工業、鐵工、車輛熔接器製造等の機械工場もある、

(ル) 佛印の手工業

從來佛印は政府當局の獎勵指導に依り且その豊富なる材料と土民の器用さが利用されて各種の手工業が發達した。その主なるものを列記すれば大体次の如くである。

籐製細工品、竹細工品、刷毛類、レース、刺繡、ヘルメツト帽、蘭草籠及蓑蓆、曲木細工、椰子實の皮製靴拭マツト、貝殻細工、金屬器具、漆器、線香、絹織物、家具等。

○泰の工業

泰の輸出貿易の九五%までが原始産業であり輸入品の八〇%が消費製品であることから、泰工業の現状を察知し得る。一九三二年の無血革命により、君主立憲政治に變へて以來、工業は總て國家が行ふやうになつた。然も近代的大工業は殆どなく、多く小規模工業程度に過ぎない。

先づ工業動力であるが各工場は多く蒸氣機關を使用し燃料としては錫屑粗穀を使用してゐる。主要燃料たる石炭石油の無い事が大きな憾である。將來豊富低廉な水力電氣が開發されれば泰の工業は大いに發達し資源の開發も一層促進せられよう。

(イ) 精米業、製材業

泰の工業は先づ二大輸出産物たる米とチークに關聯した精米及製材業である。之等は大部分支那人の經營する所で少數の外國人及泰人經營のものがあるに過ぎない。現在全國の精米工場約七〇〇、其内約八〇が盤谷に在る。

製材工場の大規模の物はチーク伐採の特許權を有する大會社の所有經營に係るもので、英國系四、佛國系一、丁抹系一の六會社がある。一九四〇年國營の製材所も設置せられた。

(ロ) 織維工業

盤谷の郊外に軍服地の製造を目的とする官營の試験工場があり織機一萬臺(自動式二、七〇〇臺)程度のものである。

元來此國は棉花及染料の不足と織機の劣悪に依て本業に大なる發展の期待を寄せることは不可能であつたが近時地方に棉花の栽培が奨勵され、近代的織機の輸入と相俟ち、東北部ナカーン、ラヂヤジマを中心として華僑の織工業が急激に擡頭するに至つた。

(ハ) 窯業

從來日本を主として外國製品の輸入を仰いでゐたが近時土木事業の活況に伴ひ需要著増を來したのに着眼した丁抹人は泰國資本家を動かし、兩國合辦の泰セメント會社を設立した。年産十五萬噸、資本金二六〇萬銖内泰七五%丁抹二五%。其他硝子及陶器製造業があるが概ね零細工場である。製陶業は各種工業中最も古いもの、一であるが現在では壺類、水差類、鍋類等の日用陶器の範圍を出す、而も素焼の赤土焼で依然手工業の域を脱しない。最近メナム河岸のノンタブリーに發展したのは主に華僑、モン人之に當れる由。

其他煉瓦及タイルも多少の生産あり、同様華僑の手に依る。

(ニ) 燐寸工業

比較的によく發達を見て、殆ど自給自足の域に達してゐる。主なる工場は泰燐寸會社(英系)にて資本金二〇〇萬銖日産能力九千兩と稱する、華僑資本で民生火柴廠外一社が有力である。

(ホ) 護謨工業

シンゴラ附近にあり大部分華僑の經營である。

(ヘ) 製紙業製糖業

何れも官營工場が出来、漸次發達の過程に在るが未だ國內需要の六〇%を充すに過ぎない。

(ト) 麥酒釀造業

一九三四年泰人によつて資本金六〇萬銖の麥酒會社が設立せられたが未だ輸入ビールを驅逐する程度には達しない。

(チ) 造船業

海軍工廠と英米バンコックドック會社がある。他は概ね河川用の小蒸氣船や發動機船の建造が比較的技術に於て見るべきものある以外、木造船工場を主とし未だ振はない。

(リ) 機械工業

近年多少此種工業の勃興を見つゝあるも大工場としては鐵道附屬の工作所程度のものである。他は華僑經營の部分品工場である。

(ヌ) 製氷工業

臺灣岸の漁業用として重要な事業をなす。工場としての規模比較的狭少で主なるものは英系の盤谷製氷である。其他泰人、華僑の經營にある小工場あり、清涼飲料水製造を兼營する。

(ル) 製油工業

大風子果、椰子油を壓搾製油する。
其他胡麻油、落花生油、ヒマシ油、カスター油の製油工場あり。

(オ) 製煙草工業

北部に發達する。近年煙草の需要増加の傾向にあり有望な事業である。英米煙草會社ほか華僑經營の五會社あり。

(ワ) 其他

其他には石鹼、ローソク、パイナップル罐詰、製糖、製藥、化粧品、製革、染色、金屬加工、乾電池等あり何れも小規模で主として華僑の經營にかゝり未發達の状態に在る。

「泰國經濟を泰人の手へ」。最近泰國内に熾烈化しつゝある國民主義の一の現はれとして泰國政府は今般二十七種の職業について泰人以外の從業を一切禁止した。今回外國人に禁止した職業の主なるものは次の如きものである。

佛像の製作鑄造、薪、木炭、金屬容器、松明、煉瓦等の製造及販賣、最近服裝令で喧しい婦人帽の製造、婦人服裁縫師、籠、什器、漆器、泰彫、泰文字植字工、花火、人形玩具、傘の製造、辯護士、理髮師

○馬來の工業

馬來の工業的發展は比較的新しい。一九三二年就任のクレメンチ總督の「馬來産業化」運動によつて本格的發展が約束されたと云つてよい。工業原動力たる電力は昭南島獨占のもの十五ヶ所あり、内一萬キロのものは二ヶ所に過ぎず、水力、火力合せて十萬キロに足らずである。石炭もセランゴールのバドフラン炭坑から採掘するものが主なるものであるが、その採量は五〇萬噸に足らずで島内需要を充すに至らない。

(イ) 錫工業

錫工業は昭南島とベナンとで行はれてゐた。其他には華僑經營のものがある、英領馬來には海峽貿易會社、萬福興等の製鍊所があり領内の錫鑛の他に蘭印、泰、佛印等からも原鑛を輸入して之を精鍊してゐる。

今次戦争により昭南港精鍊所は破壊の程度甚しく復舊には相當の時日を要すると報ぜらるゝも、彼南のものは比較的輕微の趣にて既に操業開始し居り共榮圈需要は此處の生産量で充分満し得るから錫の精鍊は今後彼南に重點が置かれる事であらう。

(ロ) 護謨工業

護謨工業の發達には相當見るべきものあり、護謨靴、タイヤ、チューブ、ゴムタイル、ホース等の製造が行はれてゐるが、未だ品質下級の程度は免がれない。昭南島にある昭南ゴム製作所が規模最大である。

(ハ) ビール醸造業

一九三一年六一萬ガロンの外國ビールを輸入した半島も一九三四年には三三萬ガロンと半減し、其反面、領内生産は倍加してゐる。主なる會社は馬來釀造會社、半島釀造會社の二社である。
パイナップル罐詰製造工場は主として支那華僑の手によつて經營され其の數二〇、生産能力一工場日産六〇〇乃至

四、○○兩と様々である。

最大のもは李鳳梨製造會社である。

(ニ) 清涼飲料工業

清涼飲料工業も領内を満し、スマトラ、泰に輸出する餘力を持つてゐる。

(ホ) 機械工業及鐵工業

本工業は主として支那人の經營に屬してゐるが邦人經營及歐人のものもある。而して其の規模設備に於て最大のもは Amied Engineers, Ltd. で本工場を昭南島に設け、イポー、ベナン、マラツカ各地に支店、分工場を有し小機械及工具類の製作修理を營んでゐる。之に次ぐものに Thonycroft Ltd. あり、自動車及船舶用品の製造を行つてゐる。其他約四〇の鐵工所があるが概ね資本金十萬海峽弗以下の小規模工場で殆ど華僑の支配に屬してゐる。尙此の外に官營工場として昭南島に船舶、コーランポーに鐵道關係の工場あり。

(ト) 其他の工業

其他燐寸、石鹼、タイル、鞣皮、ビスケット等の製造業が小規模乍ら起りつゝあり、又手藝品、細工物等の家内工業生産は隨所に見らる。

ビルマ工業

ビルマに於て近代工業は全く未發達である。

ビルマ工業と稱すべきは精米、製材、精油等の工業に過ぎず。現在の總工場數千餘の内過半数以上約八割は此等の占むる所である。

(イ) 精米工業

大資本經營は英系スチールブラザーの掌握する所で、之に對し産米地各所に中小精米工場が數多勃興を見、仲々の盛況である。其の精米能力年額八百萬噸と稱す。

(ロ) 製材工業

ビルマ産チーク材は量に於て隣國泰に譲ると雖も、質は却て之に優り、世界最優品と云はれる。製材は精米に次ぐ主要工業で近代的設備による經營が行はれたが資本的には英印の獨占下にあり。

(ハ) 製油工業

エナンヂヤンには英系大會社で代表的製油業の B・O・C がある。

小規模の手堀油井を除き、製油事業は英人の獨占する所で特に B・O・C は設備も近代的である。

(ニ) 手織機工業

ビルマの手織機は約十萬臺と稱しその製造高はビルマ全消費量の二五%、綿布約五、五〇〇萬碼に達する。アマアラがビルマ機業の中心にて此處の指導所には最近新型機械の設置を見從來に比し三倍の能率増進に成功したと云はれるアマアラ地方からは又世界的に有名な絹織物を産出する。

(ホ) 陶磁器工業

ビルマには陶土硅石が多量に存在し、窯業成立の可能性は充分であるが、一般に技術の貧困の爲極めて幼稚の域に在る。政府は斯業奨励の爲、ラングーン郊外の一陶業者に十一萬留比の低資を供給し、近代的設備を以て家庭用陶磁器の製作を計畫せしめたが事業資金は殆ど工場設備に費消し事業極めて不振である。

(ヘ) 莫大小工業

ラングーン郊外に一大工場がある。資本百五十萬留比、其規模は印緬を通じ一、二を争ふ工場である。製品の指導は日本人技師之に當り一ヶ年二十五萬打の生産を有す。殊に従来行はれ得なかつた「ファンシー」もの「キワモノ」の生産に力を注ぎ日本品の輸出に甚大な影響を興へつゝあつた。

(ト) セメント工業

天然瓦斯を利用する唯一のセメント工場がある。英印緬の合同資本により、年産六萬噸を目標に設立せられ、常に良好の價格を維持してゐる。此の工場の出現によりビルマは現在自給自足の状態に達した。

(チ) 燐寸工業

ラングーンに大小の工場數多あり、殆ど自給自足の域に達し甲谷陀燐寸が多少輸入される程度である。

(リ) 石鹼工業

小規模の洗濯石鹼工場がラングーン郊外に十數ヶ所あり、未だ自給自足の域に達せず。最近は時局の影響にて曹達灰等の資材不足に悩んでゐると云ふ。

(ヌ) 漆器工業

本業は最も將來性ある工業である。原料的にも漆が豊富であり、今日迄數百年間続けられた工業で内外の需要、製品の品位、徒弟養成と其技術等の點からみて更に今後の一段の發達が期待される。舊都バガンは元來本業の中心であり。

今でも工藝美術上價值ある技術が保存されてゐる。漆器工藝學校もある。作品は模様付花瓶、盆セット、ジャール、茶托等の家庭用品で最近では金銀の蒔繪、モザイク模造品も製作され、模様は花鳥、風景、歴史畫等仲々精巧なものがある。木と竹とを綜合したものは殊に堅牢にして趣味あり。歐米人の歡迎する所となり土産工藝品中第一位を占める。

(ル) 其他の工業

以上のほか繰綿、護漢靴、金屬機械工業あり。尙工藝には寶石、貝類、木工細工等あり。元來ビルマ人は男女とも手藝に優れた素質を有するので適當な教育指導を興へれば家内工業として將來の發達は容易であらう。

○東印度の工業

東印度に於ける一九三〇年末の工場数は、五、三八五工場であつたが、十年後には七、一九二工場と三三、五%の増加を示した。

之等の工場の内、精米、ゴム、珈琲、砂糖、タピオカ、繊維等の農産物加工工場が二、三三三工場で、總数の三二%を占めて居る。工場分布の状態はジャワが最も多く、全工場数の六五%が集中して居り。スマトラが之に次ぐ。更にジャワに於ては西部四三%、東部三一%、中部二六%の順となる。工場従業員は原住民が九〇・五%で支那人其他東洋人が六九%歐洲人が二・六%である。之等従業員は織布工場に働く者が一番多く、精米所、活版印刷工場、タピオカ工場、機械用工具工場、機械工場等の順序である。

東印度工業の發展過程を察知する爲に、以下工業自給率を擧げよう。

| 業種別 | 自給率(パーセント) |
|-------|------------|
| ビスケット | 三三 |
| 人造バター | 三 |
| 糖果 | 六 |
| 菓 | 六 |
| 紙巻煙草 | 二 |
| 紙 | 二 |
| 綿帯 | 三 |
| 擬革 | 三 |
| 靴 | 三 |
| 其他 | 三 |
| 傘 | 三 |
| 紙 | 三 |

| 業種別 | 自給率(パーセント) |
|-------------|------------|
| 硫黄 | 六 |
| 線 | 六 |
| 塗料 | 六 |
| 洗滌石鹼 | 六 |
| 洗濯石鹼 | 六 |
| アスベスト、セメント板 | 六 |
| 硝子 | 三 |
| 硝板 | 三 |
| 製鋼 | 三 |
| 自轉車 | 三 |
| 乾電池 | 三 |
| 乾電池 | 三 |
| ライター | 三 |
| 織布 | 三 |

東印度に於ける主要なる個々の工業に就き概説する。

(イ) 織布工業

之は最近最も顯著な發展を遂げた工業の一つで土人労働者が機械に特に優れた技術を持つてゐた事と、和蘭の保護獎勵政策に負ふ所が大である。

一九三二年バンドンに織物指導所が設けられ、翌年本國資本による近代的な織布工場がガールに設立された。織布工業の發達を織機臺數から眺めると最近の飛躍振りがよく了解し得られる。即ち

| 年 | 手織機 | 力織機 |
|-------|--------|--------|
| 一九三〇年 | 五〇〇 | 五〇〇 |
| 一九三五年 | 五,〇〇〇 | 五,〇〇〇 |
| 一九四〇年 | 五〇,〇〇〇 | 五〇,〇〇〇 |

一九四〇年來織物工業所營業統制法が公布されて、全織布工業は政府の統制下に置かれることになつた。織布製品も、サロン第一主義より漸次他の織布に向けられ、最近は軍用服地其他國防用品の製造が行はれてゐた。一九四〇年の織布製品の生産高次の如し。

| 品名 | 生産高次 | 単位 |
|------|------------|---------|
| サロン | 10,000,000 | 盾 |
| 織布 | 50,000,000 | (五千萬米) |
| タオル | 10,000,000 | (二五〇萬枚) |
| 其他織物 | 5,000,000 | (五五〇萬米) |

従つて輸入織糸の數量及種類は、最近特に増大傾向にあつた。

(ロ) 紡織工業

従來、織布用原料は大部分輸入し、殊に日本品に九五%依存して居た爲、之が自給を目ざし、一九三九年中部爪哇に

試験紡績工場を設立したのが紡績工場の嚆矢である。現在並計畫中のものは次の三工場である。

| | |
|--------------|---------|
| 中部、ジャワ、テガル | 40,000錠 |
| バスマン | 50,000錠 |
| ボジョウネゴロ(計畫中) | 50,000錠 |

之等の總錠數は一五五、〇〇〇錠でジャワ織布年消費量一二、三一九錠の綿糸を自給し得ると云はれる。尙之に要する棉花は約一二、〇〇〇疋で、内五、〇〇〇疋は地元産で不足量は七、〇〇〇疋であつた。

(ハ) 皮革、ゴム工業

皮革關係の主要製品は靴、馬具、鞆、運動具などであり、一九三六年の調査では生産額三六〇萬盾に達してゐる。

護膜製品もゴム靴、包装用ゴムバンド、ガスマスク、自動車及自轉車用ゴムタイヤ等、廣範圍の製造が行はれてゐる

(ニ) アルミニウム工業

トバ湖の水力を利用しての發電計畫は既に道路工事も出来、電線三〇萬越も準備され、發電機さへあれば四〇萬キロの發電が出来る計畫であるから、早急にアルミナ工場が實現するであらう。

(ホ) 硝子工業

資本金二二〇萬盾で藥用瓶の製造工場がある。原料は大體東印度内で自給して居た。現在の工場數七、其分布はバタバ四、スラバヤ三となつてゐる。其使用者合計三千人と稱し、屑硝子を原料として安物のコップ、藥瓶、サイダー瓶を造つてゐるが供給能力は全東印消費の三〇パーセントを満すと云はれる。最近ではビール壘不足が叫ばれてゐる硝子工業も亦蘭印工業化案の一とせられてゐる。東部ジャワのトバン海濱砂を使用し、年産一千萬本のビール瓶及化

學藥品用容器を製造する案が立てられたが調査の結果原料砂が不適當と判明し中絶してゐた。之に代るものとして中部ジャワのレンバン州、ラツサムの東南ロダン及ケブレнкаの二地方にある石英砂が着目されてゐた。因に同地方の砂は從來近接のカンダン町にあるニツキー陶磁器工場に於て皿、茶碗類及耐火煉瓦、瓦等の製造原料とされてゐる。

(ヘ) 製紙パルプ工業

現在プリアンガン州のバダランとプロボリンゴ南部の二ヶ所に書紙及煙草紙の製造工場がある。

(ト) 莫大 小工業

蘭印に於けるメリヤス工業は織布業よりも尙歴史は浅い。そして其大部分は織布工場に附隨して出来たものである。

一九四〇年初に於ては合計一四〇臺の編機が操業されて居り、その生産推定量は一七〇萬枚のメリヤス製品であつた此の數字は現在領内消費の六%にしか當つてゐないと云はれる。

(チ) 金屬製品、鋳力、包装具製造工業

罐詰用の罐、鈕、尾錠金、度量衡器、家庭用品、藥罐、水筒類の生産は陸海軍用の爲著増した。

(リ) 自轉車及自動車組立工業

部分品を輸入して組立てるものが多いが簡單なもの、例へば、プラケットトラック、シートトラック、後ホーク、フレーム、パイプ、泥除、スタンド、荷臺、チェーンカバー、リム等は領内生産が行はれつゝある。部分品の輸入難等による値上りの爲業者達は利得したものが多し。

(ヌ) ビール醸造業

一九三三年輸入制限以來領内製造ビールは一層有利な地位に立ち日本獨乙からの輸入を減少せしめてゐた。ビール工場はバタバ、スラバヤにあり、ビール瓶年消費高は約一千萬本と云はれる。

(ル) 製菓工業

ビスケット、コ、ア、チョコレート、糖菓等が造られてゐる。

ビスケットは最近住民向として需要が増大し、又英國、和蘭等の歐洲物の入荷が杜絶した爲、高級品も引合ふ様になつた、住民向のものは一仙につき何個と云つた安物で、この方面では華僑工場の發展が著しく、今後住民の日常生活に織込まれるものであるだけに有望視されてゐる。

ジャワに於ける大規模製菓工場數六八工場あり。バタビヤ、スラバヤ、バンドン、ソロ、マランを主として散在する。

(オ) セメント工業

セメント業亦輸入制限により維持されてゐた工業である。スマトラ中部バダンにポートランドセメント工場あり、最近工場擴張を完成したが國防作業の増大で需要に追付けず、東部ジャワツグリセに新工場が計畫されてゐた。

(ワ) 陶磁器工業

ガンダンの蘭印耐火陶土器製造會社は一九三九年に操業し、安物陶器は日本品と競争可能と稱してゐた。然るに對日資金凍結以來日本品の入荷困難となりバンカ陶土が着目され、ジャワ方面へ積出されてゐた。又バンカ島に陶磁器工場を新設するとの噂あり。

(カ) 製材並家具製造工業

ベニヤ板工業は工業化案中にも取上げられて居り、東印主要物産であるゴム及藥、石鹼、マルガリン等の包装に必要不可欠のものであるのみならず、家具、建築用にも用ひられてゐる。現在スマトラにある二工場に於て全需要の二〇%を供給し、他は主として日本及北歐方面から輸入してゐたのである。

(ヨ) 其他の工業

其他の工業としては機械及製鐵、造船、鐵鍋、酒精及醸造、清涼水、麵類、罐詰、食用油脂、煙草、塗料、インク及封蠟、藥劑、驅虫殺菌劑、硫酸燐酸鹽、石鹼及香水、マツチ及花火、電球電池等の各種工業が成立し若くは成立の過程にあり、何れも蘭印工業化の具体的現はれと稱すべく漸次輸入防遏に役立つて來たがまだ全島需要を満すには足りない状態に在つた。

○比島の工業

比島工業は最近十五、六年間に發達したもので、農産物加工を中心とし概ね不振である。工業の發展に缺くべからざる動力は水力發電所二四ヶ所、電力合計三三、四〇〇馬力で、最大のものはマニラ電氣發電所の二二、八〇〇馬力である。

比島の工業化に對する原動力はネバ運動 (National Economic Production Association) に依るものと謂ふべく、之は比島の經濟的獨立を目的とした國産品獎勵のための機關である。

此のネバ運動の展開と國策會社 (N・D・C) の活動により、製糖、製油、製材、製綱、製煙草等の原料工業はNDC紡績工場、製紙工場、製糖工場等の新しい工業段階に突入し、何れもNDCの直轄乃至經濟的援助の下に再出發をしたのである。

以下各種工業に付て概観すれば

(イ) 纖維工業

比島に於ける纖維工業は尙將來のものであり國內需要も殆ど輸入による他はない現状である。

NDC紡績工場はその主なるものゝ一で、紡績二萬錠、自動機四百臺、捺染機三臺のほかに漂白、捺染加工に要する一切の設備を有する比島紡績會社はマニラに在り、英國製紡績機一萬錠、織機百餘臺を有するが經營方法が悪く機械も舊式で能率上らず成績不振と云はれる。東洋興業株式會社は織機綿布用四百臺、人絹用二百臺であり、何れも日本製で原糸は主として日本製に依存する。尙自家製織人絹布染色のためジツカー十五臺の設備をも有してゐる。

金華メリヤス會社は右と同じくマニラに在り、邦人經營であり一般綿布織製品の輸入等を營むと、もにメリヤス工場を經營し、生産能力は年六十六萬六千打であつた。此他元巾紋敷布織機二十臺及び綿糸シルケット、晒、染色の設備

を有してゐる。

工場設備としては右の四ヶ所程度であるが、現在ルソン島の北部、ネグロス島に於ける農民は木製手織機を備へ、大型タオル、家用用綿布サロン等を織つてゐるが、之とて家用の範圍を出ない。

(ロ) 食糧品工業

食糧品製造會社は資本金二五〇萬ペソで其の五割一分に該當する。権利は國營國興會社の所有に屬す。

グワグワに野菜果物の罐詰工場、イロイロに魚類罐詰工場、マニラに製罐工場及研究所等を營んでゐるが何れも生産原價が高く輸入品にすら遠く及ばない。一九三七年に於ては肉類一千萬比、魚類三百五十萬比、果物野菜五百五十萬比の輸入を見た。

(ハ) 窯業

窯業としてはセメント工業が其の尤たるものである。之は比島に於ける唯一の自給自足の域に達する迄に發達し建築業の勃興と政府の外國産セメント輸入防遏政策に刺戟され近年著しい活況を呈した。

主なる工場はセポポートランドセメント會社と稱し、現在の生産能力日産四千樽と稱する。

此他日産二千樽と云はれるリサール・セメント會社がある。一九三八年に於ける國內セメントの生産量約百萬樽、同消費量約百萬樽となつてゐる。

以上本工業發展の要因は豊富な原料資源と、道路建築物の新設及セメントタイル、コンクリートパイプ、屋根瓦、人造大理石、人造敷石等各般の需要増大に依るものとして其將來は洋々たるものと認められて今日に及んだ。窯業關係では右のほか硝子工場もあるが微々たる存在であつた。

(ニ) 製紙業

比島はバルブ製造の原料に富み、研究の結果之が工業化は極めて有望と目され五〇〇萬比に及ぶ紙の輸入を減少すべく興發會社に於て種々研究立案中であつた。

(ホ) 船舶工業

マニラにアーンシヨウ船渠會社及アトランティックガルフの二社あり、船舶建造及修繕をなすが五百噸以上の船舶は不可能の状態である。此他小蒸氣船程度のもを造る工場としてバング河筋に四程あるが特筆するに當らない。

(ヘ) 製糖業

比島の糖業は餘りに有名である。但其の生産費は我臺灣其他に比し比較にならぬ程高價なもので從來之が米國に捌れ得た所以のものは全く關稅免除の特典の故であつた。一九三八年度の産糖高は約百十萬噸となつてゐる。

(ト) 其他の工業

以上の外には製綱、貝卸、製帽、刺繡眞田、燐寸、製油酒精製造等があるが何れも家内工業的に行はれてゐるに過ぎない。其内特に注目し値ひするものとしてはマニラ麻を原料とした綱索製造と帽子及刺繡にして一九三七年には夫々二八七萬ベツ、九三萬ベツ、七四〇萬ベツを輸出してゐる。

南方諸地域の貿易

南方諸地域年度別貿易額一覽

| 地域 | 年 度 | 備 考 |
|--------|-----------------|-------------|
| 佛領印度支那 | 一九三七年 四五,000 千圓 | 100法ヲ10圓トス |
| 泰 國 | 四七,100 千圓 | 100銖ヲ10圓トス |
| 馬 來 | 五四,四六四 | 100弗ヲ100圓トス |
| 緬 甸 | 二二六,九三六 | 100比ヲ100圓トス |
| 東 印 度 | 二七六,六三三 | 100比ヲ100圓トス |
| 比 島 | 二七六,六三三 | 100比ヲ100圓トス |
| | 二八,一三三 | |
| | 三〇,七七一 | |
| | 三三,七七一 | |
| | 三六,七七一 | |
| | 三九,七七一 | |
| | 四二,七七一 | |
| | 四五,七七一 | |
| | 四八,七七一 | |
| | 五一,七七一 | |
| | 五四,七七一 | |
| | 五七,七七一 | |
| | 六〇,七七一 | |
| | 六三,七七一 | |
| | 六六,七七一 | |
| | 六九,七七一 | |
| | 七二,七七一 | |
| | 七五,七七一 | |
| | 七八,七七一 | |
| | 八一,七七一 | |
| | 八四,七七一 | |
| | 八七,七七一 | |
| | 九〇,七七一 | |
| | 九三,七七一 | |
| | 九六,七七一 | |
| | 九九,七七一 | |
| | 一〇〇,七七一 | |
| | 一〇一,七七一 | |
| | 一〇二,七七一 | |
| | 一〇三,七七一 | |
| | 一〇四,七七一 | |
| | 一〇五,七七一 | |
| | 一〇六,七七一 | |
| | 一〇七,七七一 | |
| | 一〇八,七七一 | |
| | 一〇九,七七一 | |
| | 一一〇,七七一 | |
| | 一一一,七七一 | |
| | 一一二,七七一 | |
| | 一一三,七七一 | |
| | 一一四,七七一 | |
| | 一一五,七七一 | |
| | 一一六,七七一 | |
| | 一一七,七七一 | |
| | 一一八,七七一 | |
| | 一一九,七七一 | |
| | 一二〇,七七一 | |
| | 一二一,七七一 | |
| | 一二二,七七一 | |
| | 一二三,七七一 | |
| | 一二四,七七一 | |
| | 一二五,七七一 | |
| | 一二六,七七一 | |
| | 一二七,七七一 | |
| | 一二八,七七一 | |
| | 一二九,七七一 | |
| | 一三〇,七七一 | |
| | 一三一,七七一 | |
| | 一三二,七七一 | |
| | 一三三,七七一 | |
| | 一三四,七七一 | |
| | 一三五,七七一 | |
| | 一三六,七七一 | |
| | 一三七,七七一 | |
| | 一三八,七七一 | |
| | 一三九,七七一 | |
| | 一四〇,七七一 | |
| | 一四一,七七一 | |
| | 一四二,七七一 | |
| | 一四三,七七一 | |
| | 一四四,七七一 | |
| | 一四五,七七一 | |
| | 一四六,七七一 | |
| | 一四七,七七一 | |
| | 一四八,七七一 | |
| | 一四九,七七一 | |
| | 一五〇,七七一 | |
| | 一五一,七七一 | |
| | 一五二,七七一 | |
| | 一五三,七七一 | |
| | 一五四,七七一 | |
| | 一五五,七七一 | |
| | 一五六,七七一 | |
| | 一五七,七七一 | |
| | 一五八,七七一 | |
| | 一五九,七七一 | |
| | 一六〇,七七一 | |
| | 一六一,七七一 | |
| | 一六二,七七一 | |
| | 一六三,七七一 | |
| | 一六四,七七一 | |
| | 一六五,七七一 | |
| | 一六六,七七一 | |
| | 一六七,七七一 | |
| | 一六八,七七一 | |
| | 一六九,七七一 | |
| | 一七〇,七七一 | |
| | 一七一,七七一 | |
| | 一七二,七七一 | |
| | 一七三,七七一 | |
| | 一七四,七七一 | |
| | 一七五,七七一 | |
| | 一七六,七七一 | |
| | 一七七,七七一 | |
| | 一七八,七七一 | |
| | 一七九,七七一 | |
| | 一八〇,七七一 | |
| | 一八一,七七一 | |
| | 一八二,七七一 | |
| | 一八三,七七一 | |
| | 一八四,七七一 | |
| | 一八五,七七一 | |
| | 一八六,七七一 | |
| | 一八七,七七一 | |
| | 一八八,七七一 | |
| | 一八九,七七一 | |
| | 一九〇,七七一 | |
| | 一九一,七七一 | |
| | 一九二,七七一 | |
| | 一九三,七七一 | |
| | 一九四,七七一 | |
| | 一九五,七七一 | |
| | 一九六,七七一 | |
| | 一九七,七七一 | |
| | 一九八,七七一 | |
| | 一九九,七七一 | |
| | 二〇〇,七七一 | |

佛領印度支那主要商品別貿易額 (一九三九年)

| 品名 | 金額 | 總額ニ對スル割合% |
|-----------|---------|-----------|
| 動物性產品 | 五、四七〇 | 一・五 |
| 水産品 | 八、五〇〇 | 二・五 |
| 玉蜀黍 | 五二、四〇〇 | 一四・五 |
| 米及同製品 | 一、〇一九八六 | 二九・八 |
| 其他穀物 | 一八、五〇〇 | 〇・五 |
| 胡椒、肉桂、茶 | 一七、一四〇 | 〇・五 |
| 胡椒 | 九、九六〇 | 一・七 |
| 胡椒、肉桂 | 七、一八〇 | 一・七 |
| 茶 | 一、〇二〇 | 〇・三 |
| 植物油 | 九、九六〇 | 一・二 |
| 椰子油 | 九、九六〇 | 〇・七 |
| カボツク其他纖維品 | 三、〇六〇 | 〇・九 |
| セメント | 三、三六〇 | 〇・七 |
| 石炭 | 一三、八六〇 | 三・九 |
| 錫 | 三、一四〇 | 〇・九 |
| ニッケル | 四、二一〇 | 一・一 |
| 亜鉛 | 四、五六〇 | 〇・一 |
| タンゲストン | 二、〇一〇 | 〇・五 |
| 織物 | 二〇、五〇〇 | 〇・五 |
| 動物性產品 | 五、八三〇 | 一・五 |
| 食物及同製品 | 六、四六〇 | 二・三 |
| 食料及澱粉 | 六、四六〇 | 一・六 |
| 果實及種子 | 三、九七〇 | 〇・一 |
| 牛乳、煙草類 | 四、五〇〇 | 〇・一 |
| 木材 | 一八、五〇〇 | 〇・六 |
| 生油 | 七、〇一〇 | 〇・三 |
| 石油類 | 一三、三三〇 | 三・五 |
| 石炭 | 一三、三三〇 | 三・五 |
| 金屬製品 | 一三、三三〇 | 三・五 |
| 化學製品 | 四、五七〇 | 〇・一 |
| 染料、顏料 | 三、三三〇 | 〇・一 |
| 醫藥 | 四、五七〇 | 〇・一 |
| 陶磁器 | 三、三三〇 | 〇・一 |
| 綿糸 | 三、三三〇 | 〇・一 |
| 絹糸 | 三、三三〇 | 〇・一 |
| 麻袋 | 四、五七〇 | 〇・一 |
| 綿織物 | 六、四七〇 | 〇・二 |
| 絹織物 | 二、七〇〇 | 〇・一 |
| 人絹織物 | 七、八一〇 | 〇・二 |
| 紙類 | 七、一三〇 | 〇・二 |

泰國主要商品別貿易額 (一九三八年)

| 品名 | 金額 | 總額ニ對スル割合% |
|---------------|-----------|-----------|
| 其他 | 七、一八七〇 | 三・七 |
| 總計 | 三、四九四、七三〇 | 一〇〇・〇 |
| 米 | 九七、四九〇 | 四・六 |
| 錫 | 三〇、八一四 | 一・一 |
| 地金銀及貨幣 | 三、七六六三 | 一・一 |
| 護謨 | 三、一三三 | 〇・一 |
| チーク材 | 六、六九四 | 〇・二 |
| 鹽魚 | 三、三三三 | 〇・一 |
| 其他ノ木材 | 八三三 | 〇・〇 |
| 鹽 | 七九 | 〇・〇 |
| 檳榔(子乾) | 六三 | 〇・〇 |
| 皮(革(水牛)) | 六九 | 〇・〇 |
| ステイクラック | 五九 | 〇・〇 |
| 家禽 | 四三 | 〇・〇 |
| 皮革(牛及鹿) | 三六〇 | 〇・一 |
| 豚 | 三九 | 〇・〇 |
| 金屬製品 | 三、六九〇 | 九・三 |
| 車輛類 | 一、六七〇 | 七・九 |
| 其他 | 七、〇六三 | 一九・三 |
| 總計 | 三、三三、三三三 | 一〇〇・〇 |
| 棉製品 | 三、九〇〇 | 一六・九 |
| 金屬製品(機械ヲ除ク) | 二、二三〇 | 九・九 |
| 機械類(電氣機械ヲ除ク) | 七、七三三 | 五・九 |
| 麻袋 | 五、三三〇 | 四・一 |
| 糸類 | 四、六三三 | 三・六 |
| 煙草原料及製品 | 四、三九七 | 三・三 |
| 石油製品(ベンゼンヲ除ク) | 四、一六九 | 三・三 |
| 燈油 | 三、九〇四 | 三・〇 |
| ベンゼン | 三、七三三 | 二・九 |
| 砂糖及糖蜜 | 三、三三〇 | 二・八 |
| 籐入ミルク | 三、六三三 | 二・八 |
| 紙及紙製品 | 三、五〇五 | 二・七 |
| 電氣器具機械 | 三、〇五三 | 二・四 |
| 地金銀貨幣 | 三、四三三 | 一・九 |

鷲牛及卵
水牛
果實
其他
總計

170
174
137
36
9,303
10,813

自動車
藥品
野藥類
護謨製品
化學製品
ビール、葡萄酒及酒精
穀粉
人絹製品
絹製品
果物(罐詰ヲ除ク)
茶類
魚類
香料及調味料
陶土及陶器(租)
其他
總計

26
2,356
2,188
2,068
1,873
1,733
1,669
1,568
1,527
1,033
904
773
698
633
571
35,258
19,631
100.0

馬來主要商品別貿易額 (一九三九年)

品名
錫(塊、錠、條)
護謨

金額
(千海峽幣)
156,300
7,414

品名
石
護謨

金額
(千海峽幣)
9,033
1,000

緬甸主要商品別貿易額 (一九三九—四〇年)

石油
米
コブラ
パイナップル罐詰
アレカナット
鉄鋼
總計其他共

金額
(千留比)
10,800
10,800
10,800
9,906
9,526
9,177
100.0

錫
米
綿製品
鉄鋼及同製品
機械類
煙草
砂糖
化學藥、醫藥、染料、塗料
煉乳
魚類(含罐詰)
自動車及部分品
總計其他共

金額
(千留比)
56,377
54,290
33,911
32,376
18,203
16,648
13,831
12,376
10,168
9,533
8,933
36,133
100.0

輸出

品名
米
鑛油
木材
チンク
パラフィン及蠟燭

金額
(千留比)
11,111
11,111
11,111
10,906
3,100
3,100

品名
棉製品
ジュエリー
金屬及鑽石
煙草
原綿、綿府、綿糸
油類

金額
(千留比)
58,633
18,751
20,296
9,667
8,056
13,333
27
100.0

| | | |
|--------|-----------|-------|
| ウオルフラム | 三、八〇一 | 四・四 |
| 鉛塊 | 三〇、四三三 | 三・七 |
| 棉花 | 一〇、〇〇九 | 一・八 |
| 錫花 | 三、〇四七 | 一・三 |
| 護謄 | 三、一〇一 | 〇・六 |
| 油槽 | 三、三〇一 | 〇・六 |
| 皮革 | 三、〇七四 | 〇・六 |
| 其他 | 一、五、三、三、五 | 二・七 |
| 總計 | 五、〇、三、五、五 | 一〇〇・〇 |

東印度主要商品別貿易額 (一九三九年)

| | | |
|-------------|-----------|-----------|
| 石油生産物鑄物及同製品 | 一、五、〇〇一 | 二・三 |
| 護謄 | 一、六、三、三、六 | 二・六 |
| 品名 | 千盾 | 總額ニ對スル割合% |
| 織物(含サロン) | 七、〇、七、〇 | 一・三 |
| 機械器具 | 四、四、三 | 九・三 |
| 品名 | 千盾 | 總額ニ對スル割合% |

| | | |
|------|-----------|-------|
| 石炭 | 四、九、八、一 | 一〇・〇 |
| 調味料 | 四、一〇〇 | 一・六 |
| 食料 | 一、三、九、九、三 | 三・五 |
| 金物 | 五、九、八、二 | 二・四 |
| 機械類 | 一、三、七、四、九 | 三・五 |
| 器具類 | 三、七、四、四 | 一・五 |
| 酒類 | 三、一、五、四 | 一・一 |
| 羊毛製 | 一、四、五、五 | 〇・六 |
| 建築用品 | 九、五 | 〇・四 |
| 陶器 | 九、五 | 〇・四 |
| 衣服類 | 四、六 | 〇・一 |
| 絹類 | 三、〇、八 | 〇・一 |
| 石鹼 | 一、五、一 | 〇・一 |
| 其他 | 六、九、三、六 | 一・七 |
| 總計 | 三、一、〇、三、一 | 一〇〇・〇 |

| | | |
|----------|-----------|--------|
| 植物性油脂及原料 | 四、三、四 | 六・六 |
| 砂糖 | 六、〇、〇 | 一〇・四 |
| 茶 | 五、七、〇、九 | 七・六 |
| 煙草 | 二、六、五、五 | 三・六 |
| 藥味藥材香料 | 三、九、二、五 | 三・九 |
| 咖啡 | 二、八、六、九 | 一・六 |
| 植物纖維類 | 一、九、七、六 | 二・六 |
| タビオカ | 九、九、三 | 一・三 |
| 動物性產品 | 八、三、九 | 一・一 |
| 鑽石、卑金屬類 | 五、七、六、四 | 七・七 |
| 其他 | 四、六、〇〇 | 六・〇 |
| 總計 | 三、四、七、七、四 | 一〇〇・〇% |

| | | |
|-----------|-----------|-------|
| 鐵鋼及同製品 | 四、三、五、五 | 八・四 |
| 食料 | 三、三、三、三 | 四・五 |
| 諸織物(袋ヲ含ム) | 三、八、八、六 | 四・四 |
| 糸類 | 一、八、五、一 | 三・六 |
| 米 | 一、八、三、〇 | 三・六 |
| 船舶及航空機 | 一、六、四、三 | 三・三 |
| 紙及同製品 | 一、六、三、六 | 三・三 |
| 魚類 | 一、三、六、九 | 二・五 |
| 化學製品及藥劑 | 一、一、八、三 | 二・三 |
| 衣類及裝身具 | 一、〇、八、四 | 二・一 |
| 肥料 | 一、〇、三、九 | 二・〇 |
| 自動車及部分品 | 九、七、七 | 一・九 |
| 煙草 | 九、三、四 | 一・八 |
| 硝子及陶磁器製品 | 八、七、四 | 一・七 |
| 爆藥及軍用品 | 八、一、七、一 | 一・六 |
| 鋳力及同製品 | 七、九、六 | 一・五 |
| 石油製品 | 七、七、六 | 一・五 |
| 小麦 | 七、一、五 | 一・四 |
| 其他 | 一、三、七、六 | 二・〇 |
| 總計 | 五、二、九、三、七 | 一〇〇・〇 |

比島主要商品別貿易額 (一九三九年)

輸出

輸入

| 品名 | 金額 | 千比 |
|---------------|---------|-------|
| 砂糖 | 29,377 | 4.4 |
| コブラ | 31,031 | 4.6 |
| マニラ麻及其他麻類 | 27,428 | 4.1 |
| 葉煙草、葉巻煙草 | 11,928 | 1.7 |
| 椰子油 | 12,734 | 1.9 |
| 刺繻品 | 10,714 | 1.6 |
| 乾燥コーナツ | 8,837 | 1.3 |
| 鐵鑄、クローム、マンガン鑄 | 8,012 | 1.2 |
| バイナツブル罐詰 | 3,212 | 0.5 |
| 木材 | 3,473 | 0.5 |
| 木板 | 3,102 | 0.5 |
| 其他 | 1,212 | 0.2 |
| 總計 | 212,532 | 100.0 |

總額ニ對スル割合 %

| 品名 | 金額 | 千比 | 總額ニ對スル割合 % |
|--------------|---------|-------|------------|
| 綿布及綿製品 | 36,724 | 5.3 | 16.8 |
| 鐵及鋼鐵 | 24,944 | 3.6 | 11.7 |
| 石油及同製品 | 16,839 | 2.4 | 7.9 |
| 機械及部分品 | 12,121 | 1.8 | 5.7 |
| 煙草 | 13,924 | 2.0 | 6.5 |
| 肉製品及乳製品 | 11,024 | 1.6 | 5.2 |
| 小麦粉 | 8,331 | 1.2 | 3.9 |
| 自動車及部分品 | 7,924 | 1.1 | 3.7 |
| 化學製品 | 7,424 | 1.1 | 3.5 |
| 電氣機械及附屬品 | 2,280 | 0.3 | 1.1 |
| 人絹、絹及同製品 | 6,274 | 0.9 | 2.9 |
| 護膜製品(タイヤ等含ム) | 5,384 | 0.8 | 2.5 |
| 米 | 1,424 | 0.2 | 0.7 |
| 蔬菜類 | 2,024 | 0.3 | 1.0 |
| 皮革製品(靴等含ム) | 3,211 | 0.5 | 1.5 |
| 魚及其製品 | 3,211 | 0.5 | 1.5 |
| 煤發物 | 3,211 | 0.5 | 1.5 |
| 珈琲 | 3,211 | 0.5 | 1.5 |
| 石炭 | 3,211 | 0.5 | 1.5 |
| 果實 | 2,624 | 0.4 | 1.2 |
| 肥料 | 2,524 | 0.4 | 1.2 |
| 總計 | 212,532 | 100.0 | 100.0 |

三〇

| 品名 | 金額 | 千比 | 總額ニ對スル割合 % |
|--------|--------|-----|------------|
| 印刷用紙 | 3,212 | 0.5 | 1.5 |
| 硝子及同製品 | 2,124 | 0.3 | 1.0 |
| 塗料及繪具 | 2,124 | 0.3 | 1.0 |
| 酒 | 1,211 | 0.2 | 0.6 |
| 羊毛及同製品 | 1,010 | 0.1 | 0.5 |
| 其他 | 2,282 | 0.3 | 1.1 |
| 總計 | 12,121 | 5.7 | 26.0 |

佛印對本邦主要商品輸入額 (一九三七年度)(單位千法)

| 品名 | 價格 | 輸入額 |
|------------|-------|--------|
| 植民地消費用品 | 1,000 | 3,666 |
| 工業原料纖維及整軸 | 1,353 | 8,763 |
| 諸種生產物及屑物 | 2,677 | 1,266 |
| 糸 | 1,350 | 1,050 |
| 布 | 1,350 | 5,880 |
| 椅子其他家具及木製品 | 8,006 | 5,880 |
| 諸種材料ノ製品 | 9,933 | 5,880 |
| 皮革製品 | 4,077 | 1,315 |
| | | 30,110 |

泰國對本邦主要商品輸入額 (一九三七年—三八年)(單位銖)

| 品名 | 價格 | 輸入額 |
|--------|-----------|-----------|
| 磁器鐵器 | 5,011 | 33,115 |
| 家庭用鐵器 | 87,568 | 33,405 |
| 印刷用紙 | 5,259 | 49,533 |
| 更紗 | 1,684 | 40,147 |
| 晒金巾 | 110,100 | 73,636 |
| 生金巾 | 330,193 | 1,567,074 |
| 染金巾 | 222,266 | 716,064 |
| ガムブリック | 5,530,066 | 73,560 |
| ドリル | 1,666 | 5,261,500 |
| | | 698,333 |

莫大小製品
皮革製品
鐵鉛板
鐵線及製品
綿線及製品
手拭布
玩具
自轉車部分品

| | | |
|-----------|-----------------|-----------|
| 1,351,866 | コットンフアンシー | 2,259,957 |
| 6,811 | ホプリン | 6,691,253 |
| 5,253 | ジンズ(リムブリックヌラ含ム) | 3,577,811 |
| 884,955 | 人絹反物 | 1,566,101 |
| 1,563,357 | 其ノ他綿反物 | 1,495,569 |
| 2,558,866 | 肌衣 | 6,441,911 |
| 6,666,566 | バカマ | 3,000,511 |
| 1,633,848 | 砂糖 | 1,544,461 |
| 7,667 | 糸 | 4,991,363 |
| 1,357,555 | 麥酒 | 7,447,555 |

英領馬來對本邦主要商品輸入額 (一九三七年度)(單位千海峽弗)

未晒綿布
晒綿布
染色綿布
捺染綿布
糸染綿布
既製綿製品
絹サロン
旅行用ラッグ
絹織物

| 品名 | 價格 | 輸入額 |
|-------|--------|-------|
| 804 | 綿製下着 | 866 |
| 66 | 乾鹽魚 | 1,110 |
| 2,265 | 石炭 | 879 |
| 1,599 | 錫炭 | 2,136 |
| 2,400 | 陶磁器 | 804 |
| 400 | 洋磁器 | 5,440 |
| 1,310 | 珐瑯鐵器 | 716 |
| 405 | 亞鉛引鐵板 | 505 |
| 1,666 | 鋁力板 | 1,246 |
| 1,666 | 自轉車部分品 | 1,246 |

人絹織物
人絹下着

二、三三
六九

三四

六〇

蘭印對本邦主要商品輸入額 (一九三七年度)(單位千盾)

| 品名 | 價格 | 品名 | 價格 |
|----------|--------|------------|--------|
| 車輛船舶 | 四、六〇〇 | 自轉車部分品 | 四、〇六一 |
| 綿糸布類 | 八二、六六七 | 機械器具類 | 四、五九九 |
| 內織糸 | 一〇、四七〇 | 護 | 一〇、三三〇 |
| 未晒綿布 | 一三、三六七 | 農園ゴム | 七、四七七 |
| 晒綿布 | 一三、八五五 | 土人ゴム | 二、八二六 |
| 色染捺染布 | 一四、七一一 | 粟料香料 | 三、四四三 |
| 糸染綿布 | 六、八七六 | 內キノ及其他 | 二、九九九 |
| サロン類 | 三、〇三六 | 珈琲 | 八、二二 |
| 其他ノ織物 | 一〇、八二二 | 內ロプスターコーヒー | 八、〇五 |
| 綿メリヤスシヤツ | 五、〇四四 | 植物性油脂及原料 | 二、三三九 |
| 紙及紙製品類 | 二、三九八 | 內カボツク子 | 六、七八 |
| 金屬類 | 一〇、九〇四 | 內コブラ | 九、三 |
| 亞鉛引鐵板 | 三、〇〇〇 | 砂糖 | 七、九六三 |
| 珐瑯質鐵器 | 二、四六三 | 內白双糖 | 七、八四七 |
| 鐵板 | 一、五八六 | タビオカ製品 | 四、〇〇〇 |
| 食料品、嗜好品 | 三、一九〇 | 內タビオカ乾根 | 四、〇〇〇 |
| 內繡雜詰 | 一、四六五 | 植物纖維類 | 一〇、一〇一 |
| | | 玉蜀黍 | 五、一四〇 |

化學藥品類
陶磁器類
硝子、同製品類

四、一九二
二、四六五
二、五八六

九、〇五一
三、四二七
三、七二八

比島對本邦主要商品輸入額 (一九三七年度)(單位ベソ)

| 品名 | 價格 | 品名 | 價格 |
|--------|-----------|----------|-----------|
| 反染絲染綿布 | 三、七五五、四二二 | 晒綿布 | 一、五三三、九四七 |
| 未晒綿布 | 四、五、〇〇七 | 捺染綿布 | 一、七九三、三三〇 |
| 肌着類 | 二、四四〇、三二九 | 陶磁器及皿類 | 四、三三、一四〇 |
| 綿織類 | 一一、一〇一 | 鯖鱈粉 | 三、〇九、二九九 |
| 綿織機械類 | 六、九、三三七 | 小麥粉 | 五、五、三六八 |
| 銅鐵機械類 | 五、三、六五一 | 化學藥品及醫藥品 | 一、九、七九二 |
| 鐵管類 | 五、八、一一一 | 車輛類 | 一、三、六、三三九 |
| 器具類 | 三、〇、八九一 | 絹織詰 | 三、九、六三三 |
| 釘 | | 人絹布 | 一、〇、九七五 |
| ミル | | 其ノ他人絹製品 | 六、二、〇六六 |
| 石炭 | 一、二、六、八六八 | 絹布 | 六、二、〇六六 |
| 自轉車部分品 | 三、〇、七、〇四七 | 肥料 | 八、二、一八二 |
| 珐瑯鐵器 | 四、五、五九五 | 玉蔥 | 三、七、四四三 |
| 獸脂 | 六、五、六六八 | 馬鈴薯 | 三、〇、三三三 |
| | | | 三、二、六、五八六 |

三五

附

錄

二、南方諸地域の地域別趣味嗜好

一、佛 印

| | | | | |
|--|---------------------------|--------|-------|--|
| 好む物 | 好む色 | 嫌はれる物 | 嫌はれる色 | 備 考 |
| 牡丹、梅、蝙蝠、魚龍、太公望、七賢人等、食器には、雷紋もよし、其他外国人畫等 | 衣服に白紺、黒柿茶よし、中流以上には、紫、桃色よし | 動物 資 料 | 淡 藍 色 | 大體支那趣味を祖へば間違なし 安南人は支那人の持つ悪い趣味を多分に有す |

二、泰

| | | | | |
|---|-------------------------|---|-------------------------|---|
| 好む物 | 好む色 | 嫌はれる物 | 嫌はれる色 | 備 考 |
| 象、虎、龍、馬、猿、唐獅子、兎、龜、孔雀、鶴、鷄、鳩、蓮、菊、薔薇百合、其他近代的利器例へば汽車、 | 紅、青、黄、金、銀等 濃厚鮮明なる色よし | 水牛、白虎(不吉) 犬(下等) 鮫、鯉、(凶事)等 其他抽象的な意匠は不可、動物意匠を婦人肌衣に附す | 濃黄色は僧侶の衣に似る爲婦人服には用ひるは不可 | 白象は神の表象として尊崇する 數字に付ては佛寺に奇數を吉字に偶數を用ふ 色彩について特特の舊習に隨へば七曜日(赤) 月(黄) 火(樺) 水(青) 木(桃) 金(藍) 土(紫) の色を定められ毎日その |

飛行機、電話、ラヂオ等の意匠

るは不可

色の衿をはきかへる習慣ありしも近時一部を除いて概ね行はれず

三、馬來

| | | | | |
|--|---------------------|--|-------|--|
| 好む物 | 好む色 | 嫌はれる物 | 嫌はれる色 | 備考 |
| 花模様但毒々しき強烈なもの、動物としては猫、鶏、水牛等 圖案は高尚なもの難解なもの不可にして線のみ縦横に引いたもの好適 | 赤、青、緑、黄等 原色傾向のもの | 犬 人物模様 ジョホール王国にては動物の前足所謂趾を猛烈に嫌悪する風あり | | 一般に文化度低位にして考へが頗る単純、獨創的氣分乏しく流行等殆んど問題にならず安物安價なれば自己趣味嫌悪感さへ犠牲にする |

四、ビルマ

| | | | | |
|----------------|-------------|-------|-------|--|
| 好む物 | 好む色 | 嫌はれる物 | 嫌はれる色 | 備考 |
| 蓮、水蓮、薔薇、百合、蘭、等 | 金色、 山吹色、 | | | ビルマ人の服装は輕快なるものであつて男子は通例白や桃色其他の單色の絹又は木綿 |

艶麗な花、卉類、孔雀、白鷺、鳩、鶏、家鴨、白象、獅子、虎、狗、狼、犬、羊、鹿、駱駝、馬牛、美人畫、男優、名僧、佛教を中心とする歴史畫

黄色、
白色、

のハンカチーフ様の布きれを總髮に結び頭部に巻付け、上衣は短衣でこれまた單色のものを多く用ひ、腰部以下はルーンギと呼ばる巾着に布を巻付けその下端は踵に及んでゐる
女子の上衣は大體男子の物と似てゐるが女子は頸部に布を巻く事なく頭髮を極めて念入りに高く頭の頂上に巻上げ盛装時には頭部に金銀モールや芳香ある生花等をさし頸部に珠玉を連ねた飾りを巻く
色彩に對する觀念は一般に高等で彼等の有する文化程度以上である

五、東印度

| | | | | |
|---|--|------------------|-------|--|
| 好む物 | 好む色 | 嫌はれる物 | 嫌はれる色 | 備考 |
| 麴草模様特に馬類動物花卉を配するが最も好適なり獅子、象、駱駝、馬、牛、猿、鰐、 | 原色ならざる綠、青、茶、赤等にして濃色、系統洗練せられし色調よし、オレンジ色 | 豚、犬、等は、回教主義により不可 | | 由來未開半開民族が原色の好き厚色を好むに對し當地人は案外洗練された複雑雅味ある好みを有す、多分に歐米化せられた趣味を解し尙秀節變化土地柄にて流行色と稱すべきものなし |

| | | | | |
|--|-------------------|--|--|--|
| 兎、猫、蝙蝠、鶴 鷹、白鳥、果實類 草花類、人物、其 他、幼童、裸體美 麗、スポーツ姿、 風景、器物、船舶 靴、飛行機、劍、 傘、帽子 | は和蘭王宮色の關 係にてよし | | | |
|--|-------------------|--|--|--|

六、比 島

| | | | | |
|---|-----|-------|-------|--|
| 好む物 一般嗜好色 黄褐 色イロカノ、イゴ ロディフガオ族 紅色 モロ族 黒色 タガログ族 薄色 純白 | 好む色 | 嫌はれる物 | 嫌はれる色 | 備考 一般に好惡の事物なし傾向は東洋的ならず して、歐米式模様形態なりとす、色彩は濃 好強烈を好みすべて派当好み、柄物好みな リ |
|---|-----|-------|-------|--|

二、名古屋市所有南方地域蒐集見本一覽

盤谷蒐集見本品

| 番號 | 品名 | 邦貨換算價格 | 生産地 | 品名 | 邦貨換算價格 | 生産地 |
|----|--------|--------|-----|----|--------|-----|
| 一 | リツクラツク | 二・三 | 印度 | 一六 | 三・九 | 英國 |
| 二 | リボ | 一・元 | 英國 | 一七 | 三・九 | 英國 |
| 三 | レ | 一・元 | 英國 | 一八 | 三・九 | 英國 |
| 四 | ク | 一・元 | 英國 | 一九 | 三・九 | 英國 |
| 五 | バーマン白 | 一・元 | 英國 | 二〇 | 三・九 | 英國 |
| 六 | レ | 一・元 | 英國 | 二一 | 三・九 | 英國 |
| 七 | ク | 一・元 | 英國 | 二二 | 三・九 | 英國 |
| 八 | ドアク | 一・元 | 英國 | 二三 | 三・九 | 英國 |
| 九 | カーテンク | 一・元 | 英國 | 二四 | 三・九 | 英國 |
| 一〇 | ブレールク | 一・元 | 英國 | 二五 | 三・九 | 英國 |
| 一一 | フアジヤラバ | 一・元 | 英國 | 二六 | 三・九 | 英國 |
| 一二 | ケロシラン | 一・元 | 英國 | 二七 | 三・九 | 英國 |
| 一三 | 手提金庫 | 一・元 | 英國 | 二八 | 三・九 | 英國 |
| 一四 | 婦人上衣 | 一・元 | 英國 | 二九 | 三・九 | 英國 |
| 一五 | 婦人用內衣 | 一・元 | 英國 | 三〇 | 三・九 | 英國 |
| 一六 | ソフト帽子 | 一・元 | 英國 | 三一 | 三・九 | 英國 |
| 一七 | ク | 一・元 | 英國 | 三二 | 三・九 | 英國 |

| | |
|-----|-----------|
| 104 | 綿タオル |
| 103 | 綿バカマー |
| 102 | 子供服 |
| 101 | 子供冷シラズ |
| 100 | 子供上衣綿ネル |
| 99 | 玩具免 |
| 98 | バスタオル白 |
| 97 | マンラー綿毛 |
| 96 | 婦人帽 |
| 95 | ガーター |
| 94 | 護謨布ハンドバッグ |
| 93 | 綿婦人長靴下 |

| | | |
|-----|---|---|
| 104 | 上 | 立 |
| 103 | 上 | 立 |
| 102 | 上 | 立 |
| 101 | 上 | 立 |
| 100 | 上 | 立 |
| 99 | 上 | 立 |
| 98 | 上 | 立 |
| 97 | 上 | 立 |
| 96 | 上 | 立 |
| 95 | 上 | 立 |
| 94 | 上 | 立 |
| 93 | 上 | 立 |

| | |
|-----|------|
| 107 | 眞鍮扉鍵 |
| 106 | 眞鍮扉鍵 |
| 105 | 眞鍮扉鍵 |
| 104 | 眞鍮扉鍵 |
| 103 | 眞鍮扉鍵 |
| 102 | 眞鍮扉鍵 |
| 101 | 眞鍮扉鍵 |
| 100 | 眞鍮扉鍵 |
| 99 | 眞鍮扉鍵 |
| 98 | 眞鍮扉鍵 |
| 97 | 眞鍮扉鍵 |
| 96 | 眞鍮扉鍵 |
| 95 | 眞鍮扉鍵 |
| 94 | 眞鍮扉鍵 |
| 93 | 眞鍮扉鍵 |

四五

| | | |
|-----|---|---|
| 107 | 上 | 立 |
| 106 | 上 | 立 |
| 105 | 上 | 立 |
| 104 | 上 | 立 |
| 103 | 上 | 立 |
| 102 | 上 | 立 |
| 101 | 上 | 立 |
| 100 | 上 | 立 |
| 99 | 上 | 立 |
| 98 | 上 | 立 |
| 97 | 上 | 立 |
| 96 | 上 | 立 |
| 95 | 上 | 立 |
| 94 | 上 | 立 |
| 93 | 上 | 立 |

| | |
|-----|-------------|
| 104 | 盆及水銀 |
| 103 | 白色辨當 |
| 102 | 廣口魔法壺 |
| 101 | 細口 |
| 100 | 白磁水差 |
| 99 | 手提電灯ケース |
| 98 | 一八センチ痰吐 |
| 97 | アルミフインガーボール |
| 96 | 痰吐 |
| 95 | エナメル水存 |
| 94 | エボナイト珈琲碗 |
| 93 | 石鹼入 |
| 92 | 其入 |
| 91 | コツ入 |
| 90 | 石鹼入 |
| 89 | 小皿 |
| 88 | エナメルジョゴ |
| 87 | 石鹼入 |
| 86 | アルミ辨當箱 |
| 85 | エナメル盆 |

| | | |
|-----|---|---|
| 104 | 上 | 立 |
| 103 | 上 | 立 |
| 102 | 上 | 立 |
| 101 | 上 | 立 |
| 100 | 上 | 立 |
| 99 | 上 | 立 |
| 98 | 上 | 立 |
| 97 | 上 | 立 |
| 96 | 上 | 立 |
| 95 | 上 | 立 |
| 94 | 上 | 立 |
| 93 | 上 | 立 |

| | |
|-----|------|
| 107 | 眞鍮扉鍵 |
| 106 | 眞鍮扉鍵 |
| 105 | 眞鍮扉鍵 |
| 104 | 眞鍮扉鍵 |
| 103 | 眞鍮扉鍵 |
| 102 | 眞鍮扉鍵 |
| 101 | 眞鍮扉鍵 |
| 100 | 眞鍮扉鍵 |
| 99 | 眞鍮扉鍵 |
| 98 | 眞鍮扉鍵 |
| 97 | 眞鍮扉鍵 |
| 96 | 眞鍮扉鍵 |
| 95 | 眞鍮扉鍵 |
| 94 | 眞鍮扉鍵 |
| 93 | 眞鍮扉鍵 |

四四

| | | |
|-----|---|---|
| 107 | 上 | 立 |
| 106 | 上 | 立 |
| 105 | 上 | 立 |
| 104 | 上 | 立 |
| 103 | 上 | 立 |
| 102 | 上 | 立 |
| 101 | 上 | 立 |
| 100 | 上 | 立 |
| 99 | 上 | 立 |
| 98 | 上 | 立 |
| 97 | 上 | 立 |
| 96 | 上 | 立 |
| 95 | 上 | 立 |
| 94 | 上 | 立 |
| 93 | 上 | 立 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|-----|-----|
| 五 | 四 | 四 | 四 | 四 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 二 | 二 |
| 匙 | 刀 | 眼 | 眉 | 大 | 喇 | 三 | 拍 | 正 | 大 | 大 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| | | 毛 | 毛 | 銅 | 泡 | 風 | 具 | 柄 | 小 | 自 | 機 | 靴 | 下 | |
| (湯) | 札 | 鉗 | 鼓 | 叭 | 具 | 鼓 | 槍 | 皮 | 槍 | 動 | 關 | (男) | (男) | (女) |
| | | | | | | | | | | 機 | 銷 | カ | タ | シ |
| | | | | | | | | | | | | ツ | タ | シ |
| | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 五 | 五 | 四 | 三 | 二 | 一 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 |
| | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 五 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 二 | 二 | 二 |
| 突 | 盜 | 盜 | 盜 | 盜 | 盜 | 乳 | 乳 | 乳 | 乳 | 乳 | 乳 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 五 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 二 | 二 | 二 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |

上海州州

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 三 | 三 | 三 |
| 安 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |
| 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一 | 八 | 六 | 四 | 四 | 一 | 二 | 二 | 六 | 二 | 二 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 〇 | 五 | 七 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 七 | 六 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 | 爪 |
| | | | | | | | | | | | | | | |

| 通番號 | 品名 | 邦貨換算價格 | 生産地 |
|-----|----------|--------|-----|
| 一 | 上海蒐集見本品 | 四〇 | 上海 |
| 二 | シャツ汗裕 | 三九 | 上海 |
| 三 | 〃 | 一八 | 〃 |
| 四 | 五尺毛巾被 | 九六 | 〃 |
| 五 | 毛布浴衣漂白 | 七九 | 〃 |
| 六 | 毛布浴衣 | 六三 | 〃 |
| 七 | 毛布中條 | 六三 | 〃 |
| 八 | 西湖北 | 六二 | 〃 |
| 九 | 全白 | 六二 | 〃 |
| 一〇 | 祝君 | 六二 | 〃 |
| 一一 | 彩色毛布浴衣 | 五九 | 〃 |
| 一二 | ベットシート富綱 | 四七 | 〃 |
| 一三 | 〃 | 四七 | 〃 |
| 一四 | 手巾 | 一四九 | 〃 |
| 一五 | 手巾 | 九五 | 〃 |
| 一六 | 茶巾 | 六〇 | 〃 |
| 一七 | 茶巾 | 四七 | 〃 |
| 一八 | 睡手巾 | 四七 | 〃 |
| 一九 | 手巾(ハンカチ) | 九六 | 〃 |
| 二〇 | 手巾 | 一三 | 〃 |

| | | |
|----|----|------|
| 二三 | 日 | 記簿 |
| 二〇 | 軟信 | 夾 |
| 一九 | 如意 | 夾 |
| 一八 | 乙 | 夾 |
| 一七 | 甲 | 講義夾 |
| 一六 | 大 | フアイル |
| 一五 | 〃 | 肥皂缸 |
| 一四 | 〃 | 鹽瓶 |
| 一三 | 〃 | 胡椒瓶 |

| | | |
|----|---|---|
| 一〇 | 〃 | 〃 |
| 〇九 | 〃 | 〃 |
| 〇八 | 〃 | 〃 |
| 〇七 | 〃 | 〃 |
| 〇六 | 〃 | 〃 |
| 〇五 | 〃 | 〃 |
| 〇四 | 〃 | 〃 |
| 〇三 | 〃 | 〃 |
| 〇二 | 〃 | 〃 |
| 〇一 | 〃 | 〃 |

| | | |
|---|---|---|
| 九 | 牙 | 牙 |
| 八 | 〃 | 牙 |
| 七 | 湯 | 湯 |
| 六 | 高 | 高 |
| 五 | 茶 | 茶 |
| 四 | 電 | 電 |
| 三 | 電 | 電 |
| 二 | 玲 | 玲 |
| 一 | 白 | 白 |
| 〇 | 〃 | 〃 |
| 九 | 回 | 回 |
| 八 | 文 | 文 |
| 七 | 式 | 式 |
| 六 | 子 | 子 |
| 五 | 黃 | 黃 |
| 四 | 紅 | 紅 |
| 三 | 黃 | 黃 |
| 二 | 加 | 加 |
| 一 | 黃 | 黃 |
| 〇 | 紅 | 紅 |
| 九 | 紅 | 紅 |
| 八 | 回 | 回 |
| 七 | 粉 | 粉 |
| 六 | 彩 | 彩 |
| 五 | 托 | 托 |
| 四 | 反 | 反 |
| 三 | 比 | 比 |

| | | |
|---|---|---|
| 九 | 〃 | 〃 |
| 八 | 〃 | 〃 |
| 七 | 〃 | 〃 |
| 六 | 〃 | 〃 |
| 五 | 〃 | 〃 |
| 四 | 〃 | 〃 |
| 三 | 〃 | 〃 |
| 二 | 〃 | 〃 |
| 一 | 〃 | 〃 |
| 〇 | 〃 | 〃 |
| 九 | 〃 | 〃 |
| 八 | 〃 | 〃 |
| 七 | 〃 | 〃 |
| 六 | 〃 | 〃 |
| 五 | 〃 | 〃 |
| 四 | 〃 | 〃 |
| 三 | 〃 | 〃 |
| 二 | 〃 | 〃 |
| 一 | 〃 | 〃 |
| 〇 | 〃 | 〃 |

海

江西景德

江西景德

| | | |
|---|---|---|
| 三 | 電 | 電 |
| 二 | 〃 | 〃 |
| 一 | 〃 | 〃 |
| 〇 | 〃 | 〃 |
| 九 | 電 | 電 |
| 八 | 茶 | 茶 |
| 七 | 茶 | 茶 |
| 六 | 電 | 電 |
| 五 | 電 | 電 |
| 四 | 電 | 電 |
| 三 | 電 | 電 |
| 二 | 電 | 電 |
| 一 | 電 | 電 |
| 〇 | 電 | 電 |
| 九 | 電 | 電 |
| 八 | 電 | 電 |
| 七 | 電 | 電 |
| 六 | 電 | 電 |
| 五 | 電 | 電 |
| 四 | 電 | 電 |
| 三 | 電 | 電 |
| 二 | 電 | 電 |
| 一 | 電 | 電 |
| 〇 | 電 | 電 |

| | | |
|---|---|---|
| 六 | 〃 | 〃 |
| 五 | 〃 | 〃 |
| 四 | 〃 | 〃 |
| 三 | 〃 | 〃 |
| 二 | 〃 | 〃 |
| 一 | 〃 | 〃 |
| 〇 | 〃 | 〃 |
| 九 | 〃 | 〃 |
| 八 | 〃 | 〃 |
| 七 | 〃 | 〃 |
| 六 | 〃 | 〃 |
| 五 | 〃 | 〃 |
| 四 | 〃 | 〃 |
| 三 | 〃 | 〃 |
| 二 | 〃 | 〃 |
| 一 | 〃 | 〃 |
| 〇 | 〃 | 〃 |

海



製本控

| | | | | | | |
|---------------------------------|---|---|---|-----|-----|---|
| 冊 | 日 | 月 | 年 | 號 | 西 | 東 |
| | | | | 733 | 483 | |
| 南方諸地域ノ二葉並製本 (唯本館所存古地圖若其是等一覽) | | | | | | |
| 備 | 考 | | | | | |

昭和十八年一月八日印刷
昭和十八年一月二十日發行

名古屋市西區南外堀町六丁目一番地

名古屋市役所戰時經濟局

發行者 佐々木英助

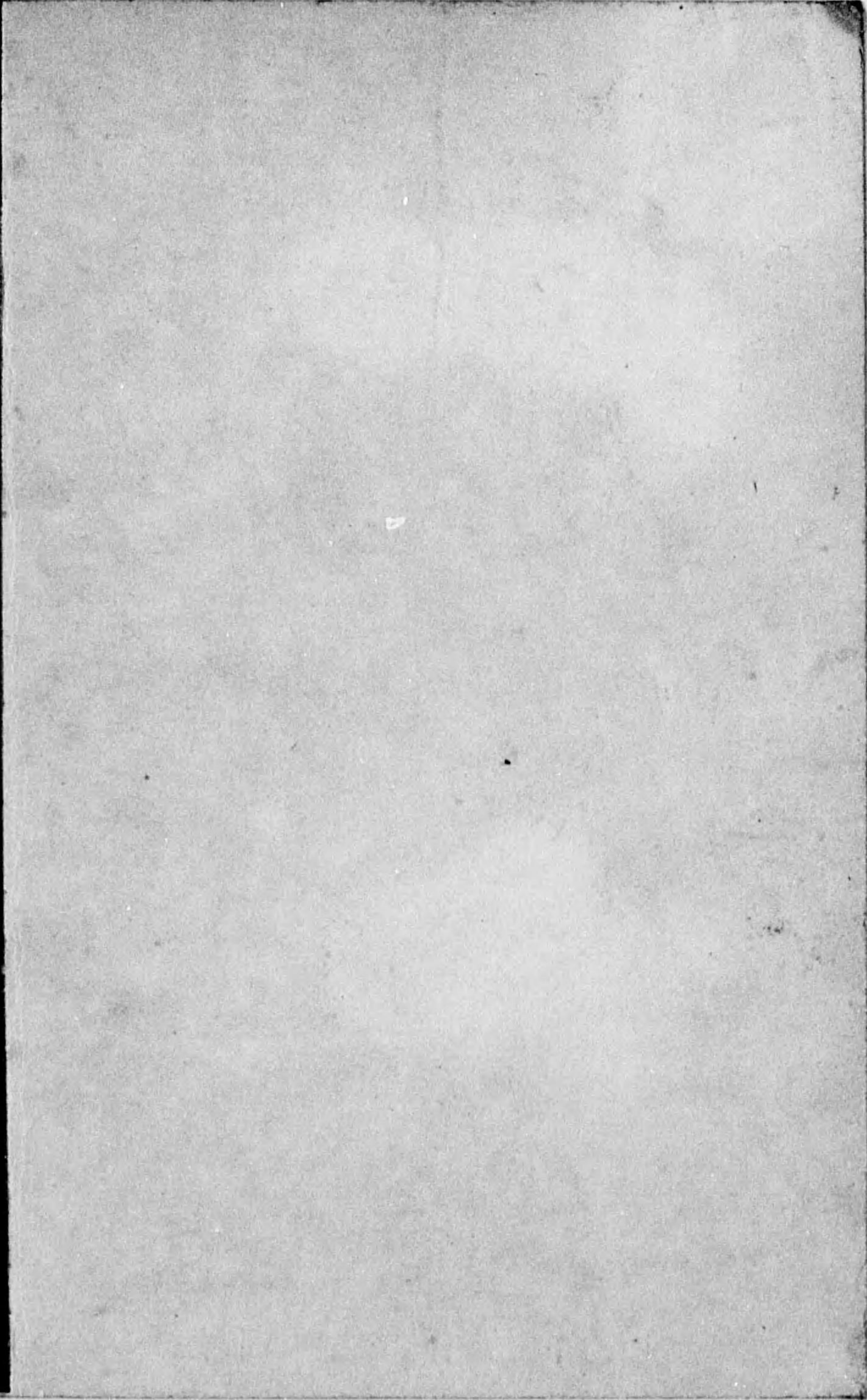
名古屋市中區南吳服町二丁目

印刷所(中愛三〇) 高橋成弘社

名古屋市中區南吳服町二丁目

印刷者 高橋通平

933
F
483



終